



## 子は親の鏡

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる  
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる  
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる  
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもはみじめな気持ちになる  
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる  
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる  
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう  
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる  
広い心で接すれば、キレる子にはならない  
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ  
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ  
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる  
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる  
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ  
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る  
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ  
やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子に育つ  
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ  
和気あいあいとした家庭で育てば、  
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

「子どもが育つ魔法の言葉」

ドロシー・ロー・ノルト

PHP 文庫

どこかで、見た詩だと気づかれた方も多いのではないでしょうか。

子どもを育てておられる、お父さん、お母さんの中には、「子育てって難しい」「どのように育てればいいのか」という不安を持っておられる方も多いのではないでしょうか。また、親として「思いやりを持ったやさしい子に育てて欲しい」「積極的に物事に取り組み、最後まで取り組む子に育てて欲しい」等の願いを持っておられることではないでしょうか。そんな不安や願いを持っておられるお父さん、お母さんに、この詩は子育てのヒントを与えてくれるのではないのでしょうか。

子育てには、こうしたら大丈夫、間違いないという万能の方法はありません。大切なのは、子どもと時間を共有し、関わり合うこと、そして、その時の接し方や声のかけ方なのです。

みなさんは、子どもが読んだ本が片付けられずにそのままにしていたらどのように言うのでしょうか。「また、本を片付けていないんだから」と言われる方が多いのではないでしょうか。そういう言い方ではなくて、「本は読んだら、本箱に入れておこうね」、片付けたら「きちんと片付けたね」等という声掛けをしてみましょう。言葉掛け次第でまったく子どもの気持ちと行動が変わってくるのです。また、時には一緒に片付けをしてもいいのではないのでしょうか。子どもは、片付け方を覚えることができますし、会話も弾みます。

今、国内では、コロナの長期化で国全体に閉塞感が漂っています。そして、国外では、ロシアのウクライナ侵攻で多くの人々が亡くなったり、また、ミャンマーやアフガニスタンでの国内紛争では、飢餓や貧困で困っている人たちのニュースを聞きます。国内、国外ともそのような状況で非常に不安定な状況があります。

子どもの心が殺伐としないように、家庭では和気あいあいとした雰囲気の中で育てるようにならねばなりません。

文責＝青少年育成センター指導員 藤村